

省エネ、地球温暖化抑制

当社では、1990年に足柄工場に、1991年に富士宮工場に各々コジェネ型発電機を導入するなど、早くから取組みを開始しました。生産工程の徹底した合理化や生産技術の改善を継続して行い着実に成果を挙げています。

第一種エネルギー管理指定対象となっている国内4事業所の2000年度の実績は、経済産業省のガイドライン(エネルギー原単位の1%改善)を大きく上回り、4.4%の削減を達成しました。

CO₂排出量の削減に関しては上記以外にも、足柄工場と富士宮工場のボイラーの燃料に都市ガスを採用することを決定しました。天然ガスは、二酸化炭素排出量が少なく、クリーンなエネルギー源として注目されています。富士宮工場は2003年2月、足柄工場は2004年5月に稼働を開始する予定です。これらの施策により、1999年をスタート点にして2010年までに32,000トンCのCO₂を、また省エネルギー施策により19,000トンCのCO₂を削減し、合わせて51,000トンCのCO₂排出削減を実現させる予定です。

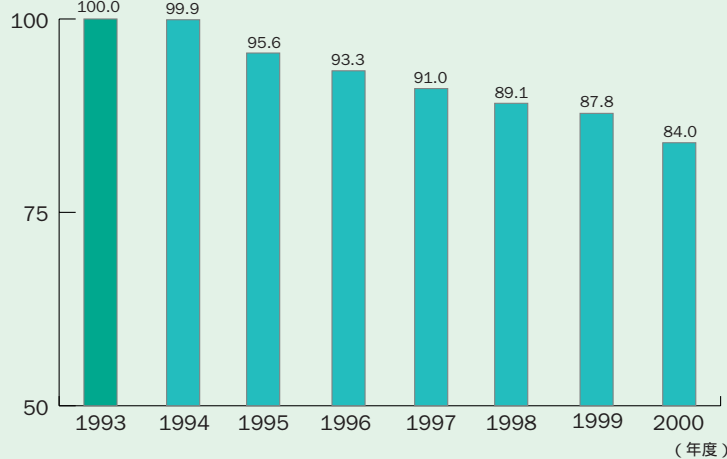
省エネ及び炭酸ガス排出量削減の推進については、富士フィルムRC委員会の下、「省エネ・炭酸ガス削減推進委員会」がその活動にあたっています。



小田原工場

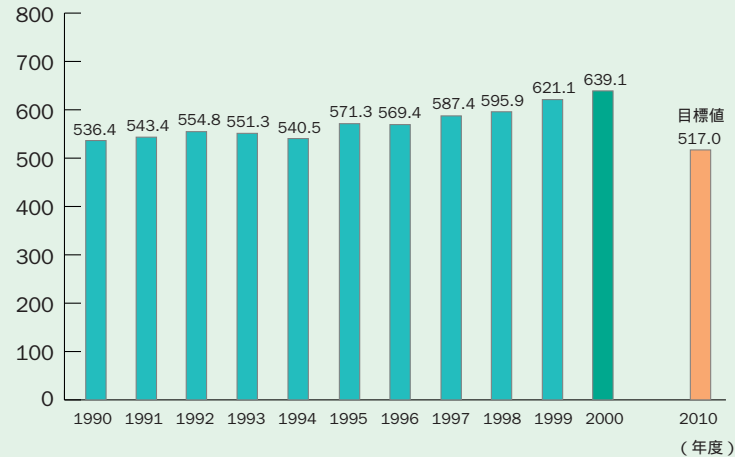
エネルギー原単位の推移（富士フィルム第一種エネルギー管理指定4事業所のデータ）

（1993年度 = 100）



CO₂排出量の推移（富士フィルム第一種エネルギー管理指定4事業所のデータ）

（千トン）



今年度からC排出量ではなく、CO₂排出量で表示しています。またCO₂排出量は当社へのコージェネ型発電機導入により、その分電力会社による火力発電量(CO₂係数: 0.612kg/kwh)が減るとの考えで計算しています(「事業者の環境パフォーマンス指標2000年版(環境省)による」注)0.612kg/kwh: 東京電力火力発電所受電端平均CO₂排出原単位(1995年度実績)

吉田南工場にもコージェネ型発電機を導入

当社PS製版製造工場である吉田南工場に、2000年1月よりコージェネレーション型の常用発電機を導入、運転を開始しました。この発電機は、発電に使うエンジン冷却水と排ガス熱を利用して蒸気を発生させ、熱エネルギーとして再利用できるものです。吉田南工場の省エネ推進と炭酸ガス排出量削減に大きく貢献しています。



新しく導入された富士宮工場の天然ガス対応設備